

平成21年4月15日

平成21年度病虫害発生予報第1号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
水稻共通	ヒメトビウンカ(注意報第1号) 縞葉枯病(注意報第1号)	- -	やや多 多
麦 類	うどんこ病 赤かび病	並 -	並 並
ばれいしょ	疫病(防除情報第1号) アブラムシ類(防除情報第2号) ジャガイモガ	並 やや多 並	やや多 やや多 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや多 やや少 並	やや多 やや少 やや多
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 並 並	やや少 並 並 並
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 並 並	並 並 並
なし	赤星病 黒星病 アブラムシ類	やや多 並 並	やや多 並 やや多
ぶどう	黒とう病	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや多	やや多
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ	並 並 やや少	並 やや多 並

【発生予報】

本文の( )内は平年値

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成21年4月1日付病虫害発生予察注意報第1号による。

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(二条大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆)の結果、小麦では発病茎率2.5%(1.7%)、発生圃場率20.0%(15.8%)であった。二条大麦、裸麦では発生を認めなかった(二条大麦・裸麦:発生を認めない)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(二条大麦:発生を認めない。裸麦:0.1%、小麦:0.8%)。

## 2. 赤かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降、曇天・降雨が続き気温が20~27と比較的高くなると多発するので今後の気象の推移に注意し防除を徹底する。

イ 防除薬剤は予防効果主体であり、発生を認めてからの防除では効果が劣るので予防散布に努める。

ウ 小麦、裸麦では開花最盛期(出穂期の概ね7日後)とその7~10日後に薬剤散布する。

エ 二条大麦では穂揃い期の10日後の薬剤散布が効果が高いので、防除時期を逸しないようにする。

オ 麦種によっては、同一薬剤でも使用基準が異なるので、使用にあたっては収穫前日数に十分注意する。

## ばれいしょ

### 1. 疫病

平成21年4月15日付病害虫発生予察防除情報第1号による。

### 2. アブラムシ類

平成21年4月15日付病害虫発生予察防除情報第2号による。

### 3. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.1%、発生圃場率0.4%)。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.4%(前年1.7%、前々年0.0%)、発生圃場率は33.3%(前年50.0%、前々年8.3%)であっ

た。

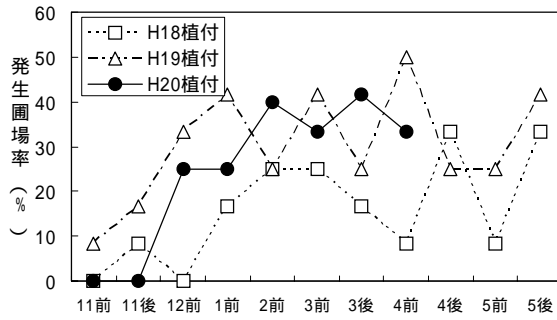


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

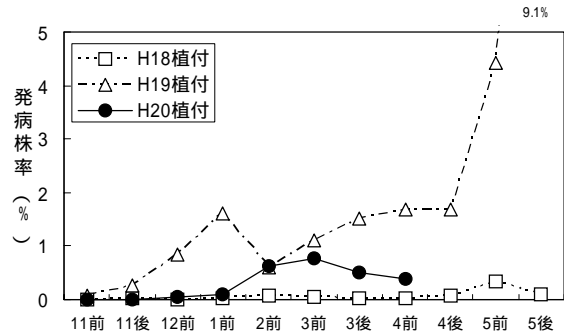


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

コナジラミの防除を徹底するとともに、発病株の抜き取りおよび適正処分を徹底する。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.3%(0.8%)、発生圃場率は25.0%(37.8%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.8%(2.2%)、発生圃場率は25.0%(29.8%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

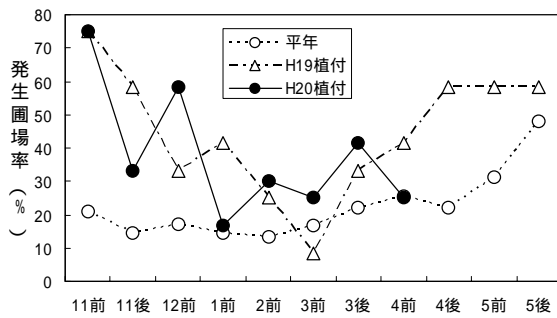


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

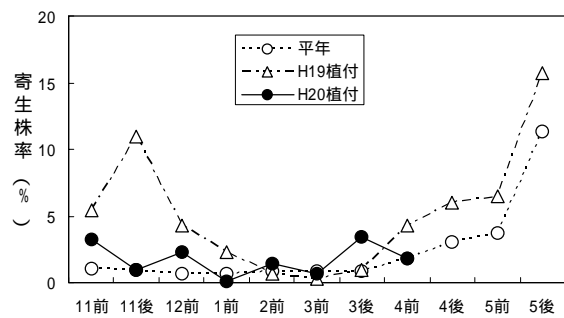


図 トマト コナジラミ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア トマト黄化葉巻ウイルスの伝染環を遮断するため、ウイルス保毒虫が野外に分散しないよう、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(葉の発病株率0.3

％、発生圃場率 10.0％、果実での発病果率 0.3％、発生圃場率 13.0％)。

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1％(0.1％)、発生圃場率は3.7％(18.1％)であった。

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.2％(1.0％)、発生圃場率は3.7％(8.6％)であった。

## 4. ハダニ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は8.7％(10.3％)、発生圃場率は40.7％(42.1％)であった。

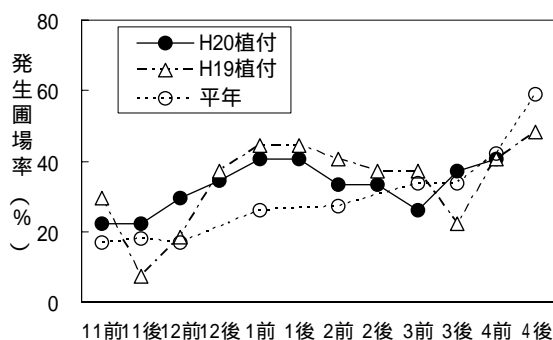


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

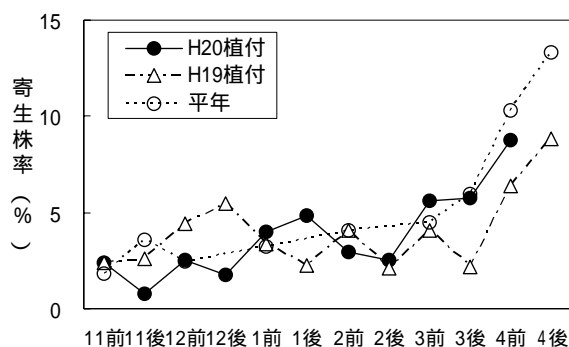


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

## かんきつ

### 1. そうか病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.0％(0.0％)、発生圃場率は5.9％(1.3％)であった。

イ 4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、新葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0％、発生圃場率0.0％)。

### 2. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.1％(0.5％)、発生圃場率は17.9％(19.0％)であった。

イ 4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、新葉での発生を認めなかった(発病

葉率 0.0%、発生圃場率 1.3%)。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.2%(1.9%)、発生圃場率は12.8%(23.4%)であった。

なし

### 1. 赤星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.3%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(0.0%)であった。

イ 巡回調査圃場周辺のビャクシン上の冬孢子堆形成調査の結果、発病枝率は0.2%(0.1%)、発生地点率は16.7%(7.3%)であった。

### 2. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

### 3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.8%(0.3%)、発生圃場率は41.7%(18.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

ぶどう

### 1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率8.3%)。

果樹共通

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1～2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.72頭/m<sup>2</sup>(0.38頭/m<sup>2</sup>)とやや多かった。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺(4月1半旬～4月2半旬)は、過去3か年より早く推移している。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスみかん、びわ、なし等では、今後果樹園への飛来が予想されるので早期発見に努める。

イ ハウスの開口部は防虫網(4mm目以下)を設置し、ハウス内への侵入を防ぐ。

ウ 防除薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準に留意する。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.7%(1.3%)、発生圃場率は25.0%(26.6%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(5回×4カ所当たり)は8.7頭(4.8頭)、発生圃場率は50.0%(53.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多い圃場では一番茶摘採後に防除を行う。

イ 感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は2.5%(9.4%)、発生圃場率は37.5%(46.1%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【参考】

気象

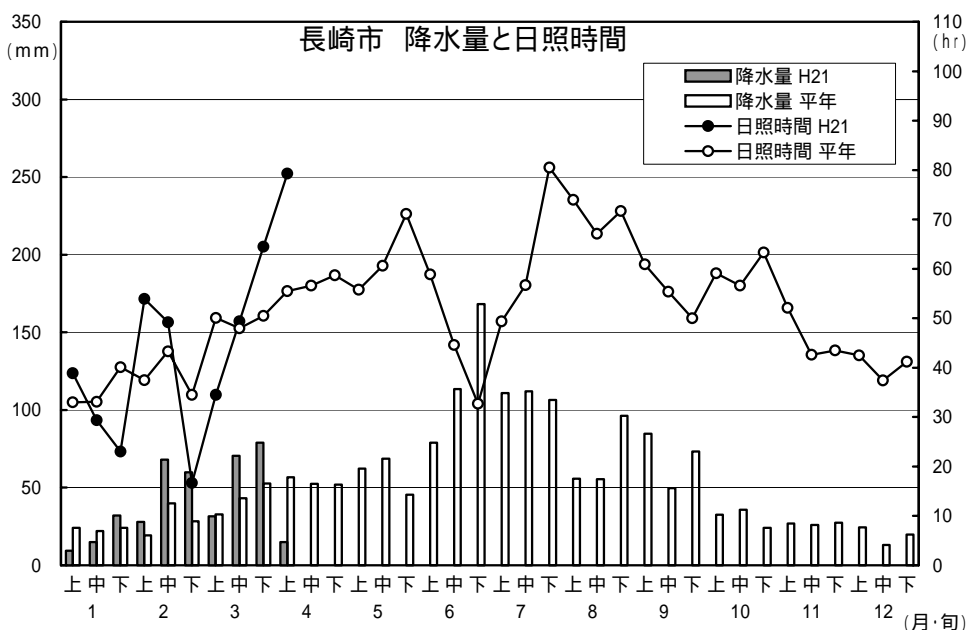
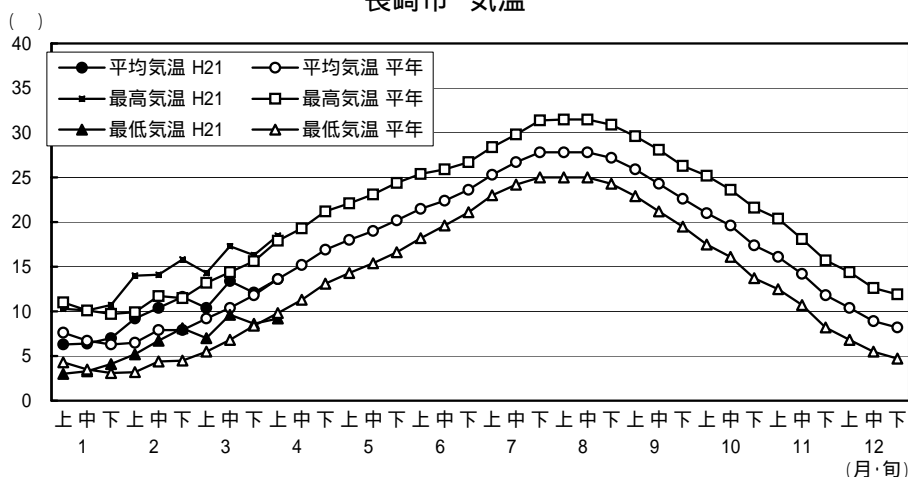
(平成21年4月10日発表 1か月予報 福岡管区気象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成21年の気象経過（長崎海洋気象台）

長崎市 気温



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027